

1. ラナリット氏、また政界復帰

3/16、ラナリット元第1首相(70)は、政界への復帰を表明した。新党を結成し王党派の再建を目指す。シアヌーク前国王の息子であるラナリット氏は2008年に政界を引退。10年に一度復帰したが、12年に王党派内の対立で再び引退した。再復帰の理由についてラナリット氏は、フン・セン首相の与党・人民党とサム・レンシー党首率いる最大野党・救国党の対立が続いている状況を挙げ、「国を救うため王党派とシアヌーク派を結集する」と述べた。

2. 越境カンボジア人「15人殺害」とタイ軍を非難

3/14、カンボジア軍は、高級木材の紫檀(したん)を違法に伐採するため隣国タイに越境したカンボジア人計15人がタイ軍に殺害されたと非難した。カンボジア側は、北部のプレアビヒア州からタイ側に越境した12人が5日、タイ軍に射殺され、1週間後にはさらに3人が殺害されたと主張した。タイ軍は殺害を否定している。両国国境では木材伐採を目的とした越境が後を絶たず、カンボジア内務省のまとめでは、タイ軍は昨年、少なくとも69人のカンボジア人伐採者を射殺したとされる。

3. カンボジアの国境カジノ増、タイ東北で懸念

タイ東北部スリン県商工会議所のクリーンサック会頭は、タイとカンボジアの国境地域でカンボジア側のカジノ開発計画が急増していることに懸念を表明した。カンボジアと国境を接するタイ東北部の各県では、2015 年末の東南アジア諸国連合(ASEAN)経済共同体(AEC)発足を控え、国境の常設化や施設の整備が進んでいる。カンボジア側では、国境一帯の経済活性化を当て込んでタイ人向けのカジノが増加。スリン県の国境にはこのほど2軒のカジノが開業した。シーサケート県でも2軒、プリラム県では1軒、ウボンラチャタニ県でも1軒が営業している。会頭は「今後さらに急増する可能性がある」と懸念。「カジノは地域経済の活性化や観光誘致に一役買うが、タイ側の資本が流出することになり、犯罪や違法行為を助長する一因にもなる」と指摘し、国境地域全体の治安悪化に警鐘を鳴らした。

4. タイの大手衣料品メーカー:TKガーメント、カンボジアの工業団地を2倍に拡張

タイの大手衣料品メーカー、TKガーメントは、カンボジア・バンテイメンチェイ州シソボンで開発している「シソボン工業団地」の敷地面積を現行の2倍に拡張する。タイの政局混戦が長引き、外国企業からの引き合いが増えているようだ。シソボン工業団地は、TKガーメントがカンボジア人の投資家と共同で開発している。第1期は敷地面積 400 ライ(64 万平方メートル)で、これまでの投資額は5億バーツ(約 15 億 8,000 万円)。第2期も、1期と同じ5億バーツを投じ、300 ~400 ライを開発する計画で、年央までに土地取得を完了する。第1期分では、TKガーメントの自社工場と顧客の衣料品メーカー1社が1月から操業を開始した。残り部分についても先ごろ、ほかの企業向けに用地販売を開始。日本の自動車部品メーカーや電機メーカー、ドイツの金属メーカー、タイのビール醸造業者、精米会社などの引き合いが殺到したことから、開発済みの用地はすぐに完売するとみて拡張を決めた。シソボン工業団地の強みは、①賃金が1日 80~90 バーツとタイに比べて安い②タイ東部国境(約50km)やレムチャバン港(約200km)に近い③生産品は一般特恵関税(GSP)の対象となり欧米向け輸出がしやすい——という点にある。また、タイ国内の政局混戦を受けて、外資の間でカンボジアへの注目が高まっていることも背景にある。TKガーメントの自社工場は投資額3億バーツ、現在の月産能力は10 万着。従業員数は400 人。「ボディーグローブ」「プレイボーイ」「キャメル」など約100 ブランドのOEM(相手先ブランド生産)を請け負う。2年以内に月産 100 万着、従業員数 1,000 人の規模に工場を拡張する計画だ。

5. 2013年度の縫製工場やシューズ工場での失神は半減

縫製工場やシューズ工場において失神を起こす労働者の数について、2013年度は前年のおよそ半分にまで減少した。労務省の機関である NSSF は去年労働者が失神を起こしたのは 823 回で、これは 2012 年の 1686 人の半分ほどであると発表。2011 年では 1973 人であった。去年の失神事故は大半が 1 月~4 月、6 月~10 月という期間に起こっている。「これは、工場がバイヤーから大量のオーダーを受けた時期、つまり繁忙期とかぶっています」とのこと。その他、この期間にはめまいや嘔吐、息切れなどに代表される心因症も多く発生している。この心因症は不適切な食事や工場内の悪劣な環境が原因だと言われている。

労務省の Ith Sam Heng 氏は、「失神者の数を減らすことにもっとも貢献した要素として NSSF の労働者教育が挙げられる。労務省は労働者の失神については十分注意を払っています。それでも、職場のアクシデント発生数をゼロにするのは、この国に限らず不可能なことです」と話している。しかし同時に、Sam Heng 氏は、「労働者の残業時間を 1 日 2 時

間までに規制する必要がある。2 時間を超えてもこっそり働きたい、という労働者もいます。しかし基準はきちんと守ってもらいたいです」と述べた。

Community Legal Education Center のコンサルタント Joel Preston 氏は、「昨年の労働者の失神件数について、正確な数はわからないものの、減ったことは確かである。昨年3月に労働者の最低賃金は月額61ドルから75ドルへと値上がりしたため、これが失神件数の減少に役立ったのではないだろうか。賃金の額と労働者の失神については、密接な関係があると、私達は何年も主張し続けていました。もし、もっと賃金を貰えたなら、失神なんて誰も起こさなくなるでしょう」と話している。Free Trade Union の代表 Chea Mony 氏は、「労働環境が劣悪なまま一向に改善せず、労働者が失神し続けている工場もある。飲み水さえ不十分なところ、残業がいまだ強制的であるところなどがあります」と述べた。Garment Manufacturers Association in Cambodia の事務局長 Ken Loo 氏は、「失神者の減少があったからといって原因がはっきりしたわけではない。きちんと突き止めるべきである」と主張している。

6. 2工場で、100人以上の失神者発生



2/27の朝、コンボンスプーとカンダルにある別の2つの工場で、100人以上の労働者が失神し病院に運ばれたことがわかった。

SHIMANO の Free Trade Union 代表 Soeun Kea 氏は、SHIMANO 社工場では、2/27の朝に 26 人が失神したことを発表し、「そのシューズ工場です。新しく使われた糊は初めて使うタイプのもので、その匂いがひどく強烈だった。シューズ加工に使う糊の匂いにやられてしまったのです。まず一人の労働者が息苦しさにより地面に倒れ落ち、それから次々と人が倒れていきました」と話す。

それと時を同じくして、カンダル州の Khsach Kandal 地区 Crystal Martin (Cambodia) Limited 社では、バッテリーから漏れた酸煙の匂いによっておよそ 120 人が失神したようだ。Crystal Martin 社代表の Seang Phearum は、「倒れた労働者達はすぐに病院に運んだ。彼等が失神した原因の大部分は、他の労働者が失神するのを見て恐れる気持ちがあったからです。病院に運ばれた労働者達はすでに回復しており、今日から仕事に復帰する予定だ」と話している。

こういった一連の失神騒動は、政府が「労働者の失神を防ぐために、対策をきっかけ改善中である」と発表をした日から間もなく起こったものである。

7. 残業拒否ストライキの状況



2/25、Por Sen Chey 地区にある Bloomtime Embroidery 工場の周辺で、残業拒否ストライキが発生。23 歳の労働者 Chenda さんは、「たとえ賃金の大幅カットにつながるとしても、今週中は残業をしない予定です。私は残業をすることで月 30 ドルの手当をもらっていました。私にはお金が必要ですが、刑務所に捕まっている他の労働者達を助けたいのです」と話す。その約 30 分後の午後 5 時、35歳の Theara さんは近くの Bright Sky 工場で働いている他の 2000 人以上の労働者とともに残業を止めて、工場から出てきた。「工場には 3000 人ほど働いている人がいますが、そのうち2/24のボイコットに参加したのは 30 人〜

40 人程度でした。労働者同士の連携に問題があり、ボイコットが成功することは難しいでしょう」と話す。カンボジアの縫製工場における残業拒否ストライキは 2 日目へと突入していますが、一体どのくらいの人数が参加しているのかはまだ定かではないようだ。

C.CAWDU の代表 Ath Thorn 氏は、「2/24に残業拒否ストライキを行なった労働者の人数に関して、およそ 129 の工場から 15 万人以上が参加した」、と発表している。2/25の統計はまだ出ていないとのこと。しかし、GMAC の事務局長 Ken Loos 氏は、「C.CAWDU が発表した人数は大幅に誇張されているものだ。実際には多くの工場は残業拒否ストライキの影響を受けていない」と言う。また、Collective Union of Movement of Workers の代表 Pav Sina 氏と、Community Legal Education Center 労働プログラム代表の Moeun Tola 氏はどちらも、「2/25の午後2時ごろに、多くの警官隊がいくつかの工場に派遣されて、労働者の残業ボイコットを防ごうとしていた」、と訴えている。

また、2/25の早い時間帯にフンセン首相はシハヌーク州で演説を行っていたが、そのなかで労働者達による残業拒否ストライキを非難し、「残業拒否ストライキはしないでください」と話した。逆に2/25の朝プノンペンでは、野党党首のサムランシー氏が、逮捕されている 21 人の釈放を求めて行われている残業拒否ストライキを支持し、「彼等は不当に扱われています。私も同じような扱いを受けたことが、1度といわず3度もあるのです」と演説した。

8. 工場側が労働組合の上部団体を告訴の構え

170もの工場のオーナー達が、GMAC を代理にたてて、ストライキを行う労働組合に対して、法的処置を取れないかどうか検討しているようだ。2/26、GMAC の事務局長 Ken Loo 氏は、「昨年の 12 月から今年の 1 月上旬まで続き、4 人の死亡によって終結がもたらされたストライキに関して、工場側はこのストライキで求められていた要求を、ある程度認めようと努力してきました。それにもかかわらず労働組合幹部は、ストライキなどを強行したので、工場側は大きな損害を被った。工場主たちは、労働組合の上部団体を告訴しようと考えています。工場が一体どれほどのダメージを受けたのかが告訴のベースとなります」、と話している。人権団体 Solidarity Center の地域部長の Dave Wesh 氏は、「工場側が労働組合を訴えるという話は先月から持ち上がっているものの、実際にすでに何かの法的措置がとられているわけではない。裁判所への訴えはただの脅しの一種でしょう。もし実際に裁判を起こすのであれば、それは逆効果になるでしょう」と話す。

Coalition of Cambodian Apparel Workers' Democratic Union (C.CAWDU)が非公式で行なった翻訳内容によると、工場側が告訴を行なうのは 1 月 5 日の出来事についてである。GMAC を代理したとされる団体が、プノンペン裁判所に対して訴えを起こしている。C.CAWDU のほかにも、Federation Textile Union of Cambodia、Collective Union of Movement of Workers、Free Trade Union、Cambodian Independent Teachers' Association and the Cambodian Alliance of Trade Unions などが告訴対象になっている。

9. パンフレット配布中の労働組合員、逮捕

パンフレットを配布していたとして逮捕された 2 人の労働組合員が、2/27、弁護士や支持者と質疑応答を行い、彼を逮捕した警官の行為そのものが法的に認められるべきものなのかを話し合ったという。Russei Keo 地区の警察官が逮捕したのは Yin Sareoun さんと Choub Nith さん。彼等はそれぞれ National Trades Union Congress (NTUC)の事務局長と会計士であり、Evergreen Apparel (Cambodia)社の周辺で残業拒否ストライキを促す内容のパンフレットを作成し配布していたとして逮捕された。Sareoun さんは、「会計士と私の二人で Evergreen 労働者へパンフレット配布を行っていた際、2〜3 人の警察官がやってきて、何も言わないまま私のバッグ、バイクのキーを掴みました。その後、彼等は私達を尋問するためオフィスに連れて行き、ある書類に判を押させることで釈放を認めました」と話している。

Phnom Penh City Hall のスポークスマンである Long Dimanche 氏は、2/27、「警察官の行為は違法なものではない。どんな内容であっても公共の場でフライヤー配布を行うためには政府からの許可をきちんと得る必要があったからだ。Sareoun さんと Nith さんの逮捕は、法を守らない国民に対する国の処置を示す、良い例になったのではないかと話す。

今回逮捕された二人が関わっていたのは、労働者達に対して残業拒否ストライキを勧める内容のものだった。このストライキは、労働組合リーダー達が企画したもので、今年中に縫製業界の最低賃金を 160 ドルへの賃上げすること、そしてストライキを支持したとして逮捕された 21 人を解放すること、そのどちらをも政府が拒んだことに対して反発するためのものだった。Cambodian Defenders Project 代表の Sok Sam Oeun 氏は、「パンフレット配布活動を行うのに政府の許可証が必要だというのは、かなり強引な話ではないか。そんな法律が存在するとは思えません」と話した。

逮捕はまた、Community Legal Education Center の労働プログラム代表 Moeun Tola 氏にとっても納得のいかないものであったようだ。彼は残業拒否ストライキを支持する集まりに参加していた。「彼等は根も葉もないことを主張しています。レストランやバーのパンフレットを配布している人々は街中にいるが、彼らは全員政府の許可証を持っているのか。逮捕の一番大きな理由は、労働者を怯えさせて抗議活動を抑制することにあるのでしょうか。今週いくつかの縫製工場で警官隊が配備されたが、これは労働者に残業をしっかりとらせるための策略であった」、と話す。警官隊スポークスマンの Kheng Tito 氏は、警官隊の配備については認めたもののそれは単に安全確保のための対処であったとコメント。

10. 石炭燃料発電所が開始

2/26、毎年 100 メガワットの電力を新たに得るため作られたカンボジア発の石炭燃料プラントは、ついにフルタイムでの稼働を行なった。エネルギーが拡大し電力供給の安定が測れるようになるものと予想されているが、電気代については特に安くなる見通しは立っていない。また温室効果ガス等の環境面の不安も払拭できていない。

発電所を建設したマレーシア企業 Leader Universal Ltd (LU)の代表団は、2/26、シハヌーク地区の Stung Hav で行われた正式発表の場に、フン・セン首相やエネルギー省の役員らとともに同席した。現地子会社の Cambodia Energy Ltd、LU のもと建設は進み、3 年間に及ぶ工事、そして 1 億 9500 万ドルの資金で、ついに 11 月に完成した。LU は 33 年間に及ぶ BOT 方式のランドコンセッションを、カンボジア政府より 2010 年に受け取り、3 年間の建設期間の後、30 年間の発電所運営期間を任されることとなっていた。マレーシア企業は電力線や変電所もすでに創設しており、これによって Kampong Cham 州へのフェリーでの輸送がより活発化することができるようだ。

開会式を取り仕切ったフン・セン首相は、この発電所は国内の需要に対してより簡単に供給を行えるようになること、

そしてプノンペンのエネルギー確保の安定が測れることなどを述べた。またプノンペンには長い間、電力の不足に悩まされてきた都市だ、とも言及し「プノンペンで使用されるエネルギーの量は、1980年代と比べるとおよそ10倍にまで増え上がりました。かつては30メガワットで足りていたものが、いまでは400メガワットも必要なのです」と話した。さらにプノンペンでいまだ停電が起こることに触れた後、「今年からもう、プノンペンの人々が電力に関して文句を言うこともなくなるでしょう。おそらくコンポンチャムの人々も同じです」とフン・セン首相は話した。しかし電気代が安くなることはしばらくないと話し、その理由について、「この発電所の建設した会社が銀行に借金を返したり、また売買益も必要としているからだ」、とした。

11. バイク目的で友人殺害の罪の少年、裁判に

2/26、クラスメイトの少女2人を森におびき寄せて殺害し、Scoopyのバイクを盗難したとして、17歳の少年と共犯者2人の裁判が行われた。プノンペンPor Sen Chey地区にあるMethodist School of Cambodiaに通っているこの少年の名はHul Samnang。被害者である16歳のChoub Srey Leakさんと、19歳のVorn Leakhenaさんを殺害した彼らの犯行は、故意に行われたもので、とても悪質だとされる。「彼は少女たちを自分の友人2人に会わせたいといって、Kraing Thnong地区に誘いました。その友人のうち1人はすでに前科があり、彼らは共謀して少女2人を殺害しました」とMunicipal Serious Penal Police Unitの副代表Hin Sokheng氏は話す。殺された少女らは、Hul Samnang容疑者とは親しい友人であったことが明らかになっている。6月22日の授業が終わった後、彼は少女らにツーリングをしようと声を掛け、Leakhenaさんらを彼の共犯者が待っている場所へと誘った。着いた直後、Leakhenaさんらをナイフで脅してバイクから降りるように命令した。少女らは手と足を布で強く縛られ、その後電線で絞め殺されたとされている。Samnang容疑者の共犯2人は、盗んだバイクをKampong Speu州のPhorn Saromさん28歳にすでに売却している。共犯者2人はいまだ逃亡中。裁判のなかでSamnang容疑者は、殺害が行われた際、「自分は家にいた」、と供述し犯行を否定している。判決は3月4日に言い渡される予定。

12. 最近の外資の進出状況

・タイのクボタ、カンボジアとラオスで農機拡販＝15年に70億パーツー

農業機械大手クボタのタイ現地法人のサイアム・クボタは、カンボジアとラオスで2015年までに、農業機械の拡販を行い年間70億パーツの売上高を目指す。うちカンボジアで50億パーツ、ラオスは20億パーツに増やす。

・タイのG社、展示場運営受注

タイの自動車関連イベント運営会社グランプリ・インターナショナルは、カンボジアの首都プノンペンの展示場「ダイヤモンド・アイランド・コンベンション&エキシビションセンター」の運営を、10月からの3年契約で受注した。自動車展示会などを開催する。

・マレーシアのペステック、送電線受注

3/10、マレーシアの電力設備のペステック・インターナショナルは、カンボジアの複合企業アレックス・コーポレーション(ACCL)から送電線・変電設備の拡張事業を受注したと発表した。受注額は8,607万米ドル(約88億9,000万円)。受注したのは、南部シアヌークビルの発電所とプノンペンを結ぶ送電線(総延長約198キロ)の敷設と、関連変電所の拡張。設計、設置から運用までを一貫して請け負う。3カ月以内の着工、32カ月以内の完成を予定。

以上